

東武伊勢崎線の竹ノ塚駅から

バスで約10分、足立区北部

に位置する花畑団地。約

1600戸を有する都

内でも有数の大規模

団地だ。敷地内は豊

かな緑が茂り、周囲

にはショッピングモ

ールや幼稚園、小学

校などの施設が充

実。公園や庭園、歴史

ある神社などに恵まれた

住環境も魅力になっている。

大型連休を間近に控えた4月

24日。団地集会所でユニークなイベ

ントが開かれた。「花畑ささえあい

カフェ」と称した手づくりの地域交

流カフェで、もてなすのは朝日新聞

社の新入社員。紙花やバルーンで飾

られた会場では、コーヒーやスイー

ツなどを格安で提供。新入社員が来

場者と楽しくおしゃべりしたり、足

立区災害ボランティアに手ほどきを

受けた足湯をほどこしたりと、誰も

が笑顔で和やかな雰囲気。会場では

近隣のリハビリホームやリハビリテ

ーション病院の理学療法士、作業療

volume 158



阿部民子 text by Tamiko Abe

Illustration by Shigeyuki Sakata

### ○地域のささえあい組織が協力

「今回のイベントは、朝日新聞社さんの新入社員研修の一環で、昨年続き2回目です。そもそもは、朝日新聞社さんが『新入社員が実社会に触れ、多様性を学ぶ機会をつくりたい』と、足立区社会福祉協議会総合ボランティアセンターに打診をしたのがきっかけ。そこで同センターが、花畑地域関係者で構成された『花畑ささえあいプロジェクト』に受け入れを提案し、実現に至りました」と説明するのはURの宮崎遼だ。

「花畑ささえあいプロジェクト」とは、花畑団地自治会を中心に、近隣の福祉施設や保育所、病院など16事業者が参画、URといのちのぶんか社が事務局を担当して2022（令和4）年に結成された。

「災害に備えての地区防災計画づくりなど、災害時に助け合う体制をつくるのが究極の目的ですが、そのためには日ごろの関係づくりが大切。こうした日常のイベントや活動を通じて顔を見知っておくことが、助け合う関係の素地になる。その両

輪で回していくのが、このプロジェクトの特徴です」とURの望月浩史が言葉を継ぐ。

結成以来、年に4回の協議会を行い、地域の方々が



花畑団地の集会所は開放感あふれる。来場者や朝日新聞社の新入社員がフラダンスで盛り上がる。



## 新聞社新入社員がおもてなし 団地で地域交流カフェを開催

花畑ささえあいカフェ  
花畑団地 東京都足立区

2025年●令和7年～

法士による健康チェック&体力測定、足立区総合ボランティアセンターによる防災・減災クイズ、地域サークル団体によるフラダンスやハンドベルのステージなどのコンテンツもあり、参加者は穏やかな時間を楽しんだ。

会場を訪れていた花畑団地自治会長の栗木テツ子さんは「この団地は高齢者が多いけど、みんなすごく元気。活動も多くて、自治会主催で夕涼み会やもちつきをやったりね。今日は孫みたいいな子たちとおしゃべりできて、みんなとても喜んでいきます。これからも続くとうれしいですね」と笑顔で話してくれた。

楽しめる地域食堂やコンサートを開催。隣接する文教大学の学生との防災キャンプや団地自治会のイベントへの参加などのほか、最近では食育に取り組む「おうち食育協会」とも連携。月に1回、集会所で子ども食堂を開くなど、活動の幅を広げている。

### ○広がるささえあいと安心の輪

「花畑ささえあいプロジェクト」のつながりを土台として開催された、今回の「花畑ささえあいカフェ」。

前日のオリエンテーションや団地見学、プロジェクトに参加する保育所見学など、2日間の研修を終えた朝日新聞社新入社員に感想を尋ねた。

参加者からの話を壁新聞や冊子にまとめる担当の白石光さんは「企画段階では来場者に楽しんでいただけの心配でしたが、ご自身の職業や考えなどを積極的に話していただけで、とても楽しかったです。祖母が住んでいるので団地は身近な存在ではありましたが、普段からこうしたコミュニケーションのつながりがあることには驚きました」と話す。

カフェで飲み物の提供を担当した酒井壮大さんは「自分たちの仕事は、多様な属性の方々に新聞を届けるのが役割。社内にいるだけでは接することができない方々と直接お話しすることができて、仕事への意識が高まりました」という。

「今回のイベントでは、ささえあいプロジェクトの認知向上と新入社員の方々に地域のつながりづくりを知ってもらうのが狙い。研修では団地見学も行いましたが、緑が多くてバリアフリーの部屋があることなどが新鮮だったようで、若い方へアピールする必要性を感じました」と宮崎。「ここで経験したことをよい思い出として記憶していただき、今後の仕事に生かすとともに、URの応援団になっていただけたらうれしいですね」と、望月は2日間を振り返る。団地を核に、ささえあいと安心の輪がゆっくりと確かに広がりを続けている。

—— 社会課題を、超えていく。 ——



[企画制作]新潮社